

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

高川山－富士山の展望台－



岩殿山からの高川山(初夏)

J R 中央本線の沿線には、駅から歩き出して日帰り出来る手頃な山が多い。高川山(976m)もその一つで、富士山展望の名所である。

2月上旬、その高川山に出かけた。初狩駅から登り、帰りは、長駆、天神峠経由で大月駅に下山する計画とした。下山途次の大月・旧陸軍防空監視所跡見学がミソである。

朝9時、初狩駅出発。自徳寺橋を渡り墓地脇の林道をポチポチと登る。シイタケ栽培場を過ぎた後、新登山道入口の道標に従い、ヒノキ林の中のジグザグ登りが始まる。9時50分男坂女坂分岐点に出て、迷わず左手の男坂に向かった。傾斜のキツイ小尾根の直登である。10時20分、女坂道を合わせ、ちょっとした台地に出て一息入れた。目の下には初狩の市街が光り輝く。



高川山頂からの富士山

後は、林が明るい雑木に変わり、足下にはミヤコザサの広がる心地よい道となつて10時40分、高川山頂上に到着した。360度の展望。圧巻は真っ白に光り輝く富士山、その左に道志、丹沢の山々、遙かに鳳凰三山など南アルプス前衛の山並み。振り返ると滝子山、雁ヶ腹擦山、

三頭山、その右に倉岳、高畑、九鬼山などが軒を連ねて見えた。

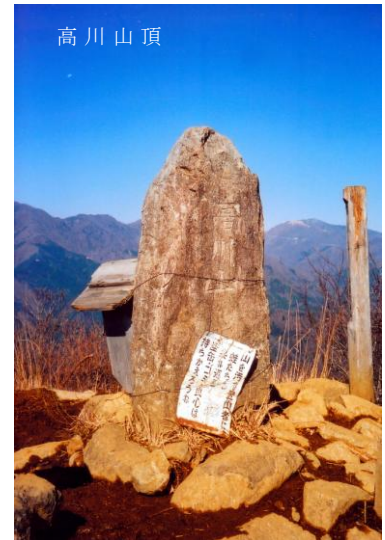
しかし、この展望を作るために立木を伐りまくったせいか、丸坊主の頂上広場のぬかるみが酷い。丸太を敷き並べては

あるが足の踏み場もなく、行儀悪いがベンチに足を揚げて休憩した。

11時15分下山開始。山頂から東に急な尾根を下り小さなピークを二つ程越した後、田野倉・禾生方向の標識に従い下って行く。12時馬頭観音に着き、ここで田野倉への道を右に分けて、天神峠経由の市境の尾根道に踏み出した。

桂川と笹子川の合流点まで延びるこの尾根道は、山と高原地図に載ってはいるが、利用者もあまりいないのか踏み跡も覚束ない。時には藪漕ぎもある。地図とコンパス片手に、慎重に尾根筋を確かめながら進む。漸く14時、防空監視所跡のむすび山に到達した。先の大戦時、本土空襲の米軍爆撃機はまず富士山を目標に飛来したとかで、

そのため大月監視所は首都の空襲予告に重要な役割を果たしていたとのこと。石垣造り堅穴の監視所跡を眺め、往時を思い感慨をひとしお深くしたことだった。むすび山を下り、大月の市街を歩いて15時、J R 大月駅に到着した。



高川山頂



防空監視所跡